平成16年
2004 3月
PUBUSHER：森松株式会社 EDITOR：梅田文康
No.225

波紋

成功させよう! 愛・地球博 Exposition of Global Harmony

2004年 慰安旅行

韓国コース

韓国組（13名）大韓航空にてソウルへ、着いて早々ソウルにて石焼ビビンバを食べ、南北に分断された韓国が実感できる「統一展望台」の観光。翌日は、金浦空港から済洲島へ、何十年ぶりの大雪に見舞われ、むちゃ寒い中での観光は、年寄りには厳しい。それでも、ショッピングとなると女性陣のたくましさが目立つ。カルビ・キムチ・海鮮鍋等、韓国料理も堪能できました。慰安旅行3日目の自由行動では、カジノで遊んだり、最後のショッピングを楽しむ等、仕事も忘れ（？）大満足の3日間でした。

北海道コース

約1時間半の空の旅を楽しみ、最初に向かった丸駒温泉は支笏湖と雪山を見ながら入れる露天風呂で、湯加減も景色も最高でした。札幌市内に着いた後は全員で蟹料理屋に行き、海の幸でお腹も満たされました。

2日目は、キロロスノーワールドでのスキー・スノボー組と小樽観光組とで別行動でしたが、それぞれが思う存分楽しみ、自由時間も場外市場へ行ったり札幌ラーメンを食べに行ったりと北海道を満喫できた旅行でした。

「韓国所感」

社長　森　直樹

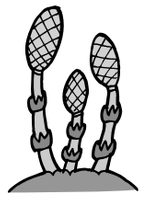
慰安旅行にて韓国へ行ってきました。上海留学時代、寮の傍にあった韓国料理屋の美味しさを覚えている私としては、買い物よりも観光よりも「食べる」こと優先です。とにかく辛い韓国料理を食べまくりました。ご存知のとおり韓国料理には海苔もあれば漬物もあり、日本文化が大陸から渡って来た人々の影響を受けていることをその食事からも感じ取ることが出来ます。

それにしても日本語の話せる方の多いこと。以前の慰安旅行のグアムでもそうでしたが、客商売の人はみな日本語が話せるのではないかと思ってしまうほどです。もちろん訪れた場所が旅行者向けだったということがありましたが、店内で働いている人のほとんどが話せるという状況は、日本で買い物をしているのではないかと錯覚しそうです。外国語が話せるということはここでは一般的だとすると、上を目指すためには更なる商品知識や接客態度が求められるのでしょうか。需要のあるところの供給として日本語を話せる人が多いとすれば、例えば日本における在日米軍基地や外国大使館の多い広尾などに外国人向けの店が多いことは容易に想像できます。つまり海外からの人の行き来が多い場所になればなるほど、外国語というのは現地語よりも利用頻度が高くなることがあるというわけでしょう。

日本がアジアにおいて経済的な中心である限り、日本語を話せる優秀な外国人がチャンスを求めて渡日し、日本人を社員として使う会社も最近よく聞きます。弊社では2月度より中国合弁先の研修生である呉さん、蒋さんが弊社で研修を開始しておりますが、さすが選抜されてきただけにその勤務態度は素晴らしく、私たちも見習うべきところが多々あります。彼らには以後半年間の研修を通して、日中での企業文化の違いを学び、日中ビジネスの架け橋と成ってくれる事を期待します。

naoki@morimatsu.net

2004年3月の予定



6日	(土)	坂井田時子さん誕生日
		第1土曜休み
8日	(月)	12時～誕生会
12日	(金)	成瀬勝英さん誕生日
		松井宣和さん誕生日
13日	(土)	8時30分～倉庫掃除
18日	(木)	長崎ひとみさん誕生日
20日	(土)	森直樹社長誕生日
		第3土曜休み
22日	(月)	7時30分～経営会議
		15時10分～営業会議
		18時～生産会議
24日	(水)	18時～編集会議
26日	(金)	14時～ビニール生地卸組合講演会
30日	(火)	久保田裕子さん誕生日

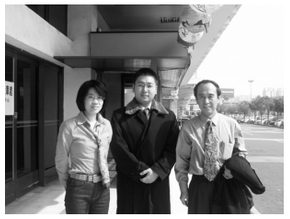
慰安旅行特別班（？）台湾

1月29日～2月1日

北海道と韓国の土産話をもらってから1週間後、2名は台湾を台北～台南～高雄と駆け回ってきました。万が一のためにと持参したコートを初日からバスに忘れたりはしましたが気温が24度もあって南国そのもの、ほぼ順調に日程を終えてきました。中国とはまた違ったこの国との取引を今後どう展開していくのか、現地でお世話になった方々から、その方向性が見えた4日間でした。

思った以上に日本に近い国、というのが台湾の印象です。

牧野、齋藤



編集後記

1月23～25日の3日間、社員旅行で生まれて初めての北海道へ行きました。北海道は遠い所と思っていましたが、飛行機で約1時間半ほどで到着したので「毎日の通勤時間とそんなに変わらないなぁ」と思ってしまいました。

1月の北海道と言えばかなり寒くて雪も自分の背丈より高く積もっているだろうと思っていましたが、想像していたよりも寒くなく雪も少なくて過ごしやすくてよかったのですが拍子抜けという感じでした。

私が今回の旅行で一番楽しみにしていた事、それはスノーボードです。

1度は北海道で滑ってみたいと前々から思っていた事が実現できて本当に嬉しかったです。

また、本場の蟹、いくら、うになども食べる事ができて幸せなひとときを過ごす事ができました。

また北海道に行きたいと思いました。今度行く時は暖かい時期の北海道にも行きたいと思います。

田中美樹
（Z―208）

「植物から生まれた、次世代プラスチック」

森　信之

生分解性樹脂を勉強することになり、最近よく聞く単語に、「バイオマス」があります。英語が得意な人に聞いても知らないし、私の持っている英和辞典にも載っていない。

しかし、昨年始めの頃から、日本政府が「バイオマス戦略」なるものを発表している。役人もあまり難しい英語を使わないで欲しいものだ。そういえば、バイオマス発電・バイオマスコージェネ・バイオマスプラスチックなど、気をつけて新聞を見ると時々使われています。特販部の飯田さんに「燃料源としてみた有機物質一般の事」「生物資源」をバイオマスと言います、と教えてもらった。

生ごみ・紙・木材・農産物・畜産の糞尿の事をバイオマスと言い、特に、トウモロコシ・ジャガイモ・さとうきびは将来有望なプラスチック原料になります。これら植物から化学合成した樹脂原料は、生育する時に二酸化炭素を吸収して収穫されるので、地球の温暖化防止にも貢献できます。

2年前の生分解性プラは「土にもどる」がキャッチコピーでしたが、現在の生分解性プラは焼却炉で燃やしてもOKのプラスチックです（燃やしてもトータル的に二酸化炭素は増えない）。

昨年までは石油を原料にしていたのが、植物を原料にして樹脂ができるようになりました。この新しい樹脂の事を「植物由来生分解性樹脂」と呼んでいます。森松では、サンビックさん、アキレスさん、三菱商事さん、生産日本社さん、各社との勉強会を今年に入り開催してきました。3月は三井化学さんを講師にお呼びし、開催します。

石化資源を大切にしながら、地球温暖化に貢献でき、生ごみ有効利用もできる、この素晴らしい素材を森松は最優先商材として販売してまいります。皆さんのお知恵を貸してください。

化学（科学）の進歩、技術革新はすばらしい。

「新撰組」

牧野光昌（クィックファイブ）

「香取慎吾が近藤勇???」と思いながらNHKの大河ドラマをみているのは私だけではないと思います。過去のドラマや映画の配役から「近藤勇はオッサン」のイメージしかなかった為に、どうしても今回の配役がピンときませんでした。

しかし三谷幸喜が言うには「新選組を結成した時は、近藤勇はまだ28歳だった。天真爛漫なキャラクターと骨太な面が同居している香取さん。純朴ながらも意志強固、武士以上に武士らしくあろうとした近藤、会う人すべてが彼に惚れたというカリスマ性を持った近藤勇という人物を演じきれるのは、今、彼を置いて他にはありません。」でしたが、過去のイメージの強さはなかなか払拭出来ないものです。それでも回を追うごとに、名立たる隊士の面々が徐々に近藤勇の周りに集まってくる背景を知り、「近藤勇」という人物のカリスマ的な人間像が少しづつ分かってきた気がします。

幕末というのは歴史の中でも大きな意味のある時代です。武家社会では農民出身の近藤勇が武士になれるわけもなく、しかし時代の波の中で近藤勇の持つ「情熱」「礼儀」「謙虚」「感謝」「人情」に引かれて集まってきた隊士たちが、歴史を作っていったわけです。

かたや同じ時代に生きた坂本竜馬とは選んだ道が全く違うのですが、人間として持っていたものは同じなのかもしれませんね。最大の違いと言えば、近藤勇の目標が「武士になること」だったという点でしょうか。当時としては農民が旗本武士になるなんて100％不可能な時代ですから、簡単なことではなかったのですが、時代背景にマッチしてなかった目標だったのでしょう。そこが竜馬とは違っていたのですね。やっぱり目標は時代に合せて持たないといけないのですね。でも、ろくに目標を持たない人よりは遥かにすばらしいですよ。

「卒業旅行」

安井浩二（クィックファイブ）

昨年の春、小学校を卒業した長男と二人で旅行してきました。旅行の目的は、卒業という一つの節目と、反抗期と思春期が入混じった年頃でもあり、父親として、じっくり息子と話をしたかったからです。せっかくの旅行ですから、何か印象に残る思い出も作りたく、普段、車の移動が主の為、電車での旅行にし、旅先は静岡県の寸又峡温泉にしました。理由としては、ここへは、JR金谷駅から大井川鉄道で行くわけですが、金谷駅から千頭駅まではSL（蒸気機関車）に乗れることもあり、貴重な体験をさせてあげたかったからです。私もSLに乗った経験はなく、実際に乗ってみれば、駅弁と汽笛の音と煙、道中の桜並木がなんとも言えず、子供よりも親の方がはしゃいでいた感じでした。寸又峡温泉では、何もない温泉街。森林浴の散歩で過ごし、据膳の食事に温泉（男の子でよかった）と、大変のんびり過ごす事ができました。

翌日は、南アルプスあぷとライン（森林鉄道井川線）にてトロッコ列車にて終点の井川駅まで山中を走り、途中、日本一の急勾配の所を走るため、アプト式電気機関車（ラックレールという歯形レールを使って急坂を登り降りします）に乗る体験もできました。

旅行の大半は列車での移動でしたが、車とは違い、乗り換え駅での待ち時間や時刻表での行く先検索など、息子も普段とは違った旅を経験したと思います。

目的のじっくり話す…。というほど会話は少なかったのですが、親が心配していたよりも、成長していたり、まだまだ、幼いところもあったり…。何よりも共通の思い出が作れた事が、結果的に大きな収穫だったと思います。

この二人だけの旅行は、今後も中学、高校の卒業の時に、また次男（小3）も同様に「男同士の旅行」として行なって行こうと思います。

フランクフルト展示会（ペーパーワールド）見学

伊東郁二（ニーズ）

1月31日は名古屋から成田経由で午後五時にフランクフルトに入り、社長と2名で2月3日まで「フランクフルト・メッセ」の展示会に行かせて頂きました。

全展示を一通り見ることが出来ましたが、二日間という時間では見ることで精一杯な為、事前に明確な目的を持つ・あるいは焦点を絞り込み時間をかけて良い業者とじっくり話し合える場を持てるような準備をすることが必要だと感じました。

会場は、1～10号館まであり、国内の展示会場とは比にならない程、広く驚きました。10の建物は、それぞれが動く歩道などで結ばれており、それだけに各会場の距離も長かったです。

中国企業の傾向については、コスト面では有利であるが、独自の商品を開発する力に欠けるという点では、まだまだ下請けしか勤まらないな・・・と感じました。

今回は、文具とクリスマス関連の専門展示会を同時に開催していました。

驚いたのはその関連商材の多様さで電飾はもちろんのこと人形、ツリーの飾りなどすべて単独の商材でいくつもの競合するブースが設置されるなど、いかに多くの需要があるかが良く理解できました。

大手の筆記具が集まる3～4号館も見学しました。ブースあたり数千万円もかけている所もあるそうで、展示方法や展示する什器のデザインなどが大変参考になりました。生演奏や、ショットバーがブースの中にあり、夕方の商談はビールを呑みながら・・・。日本の展示会では想像がつかない光景を目の当たりにしました。

2日間、10時前から18時まで歩き通しでしたが、充実した時間を過ごす事が出来ました。

3日目は、出発直前まで、フランクフルトの繁華街を、デパート・雑貨や・専門店・市場など散策しました。

今回の訪問で感じたことは、「大人の欧米と子供のアジア（日本）」。

例えば展示会だけでなく駅構内、劇場などで場内アナウンスが一切無い欧米（個々の自主性に任せる）とその逆の日本（形式重視？）を痛感しました。

機会があれば、展示会に3日～4日・繁華街散策に1日～2日を費やして、ゆっくりと再訪問したい・・と感じました。

こんな素晴しい機会を与えていただきました会社に感謝いたします。本当に有難うございました。

「きっかけは…」

西垣浩司（ニーズ）

楽しく仕事をする事は、思うより難しい時があります。しかし、一人一人が何らかのアクションをする事により、それがきっかけで周囲の雰囲気を良くする事もあるのです。

毎日の仕事すべてが楽しいと思えるのならば、それは素晴らしいことですね。しかし〝楽しくない〟場面に出くわした時でも、気持ちひとつで変わることがあるのではないでしょうか。そういった変化が、職場の雰囲気を向上させるものなのです。身近な例をあげると、要工場では〝ニックネームで呼び合うこと〟が、雰囲気向上の円滑剤となっています。一部の営業さんから※※1号などと呼ばれ、いつしか親しみが感じられるようになり、私たち自身もそう呼び合うようになりました。つまり要工場では、こういったニックネームで声を掛けながら、職場内で楽しい雰囲気をつくり出しているのです。

皆様は、どのような事を心掛けて雰囲気づくりをしていますか？